

尾張旭市地域公共交通会議

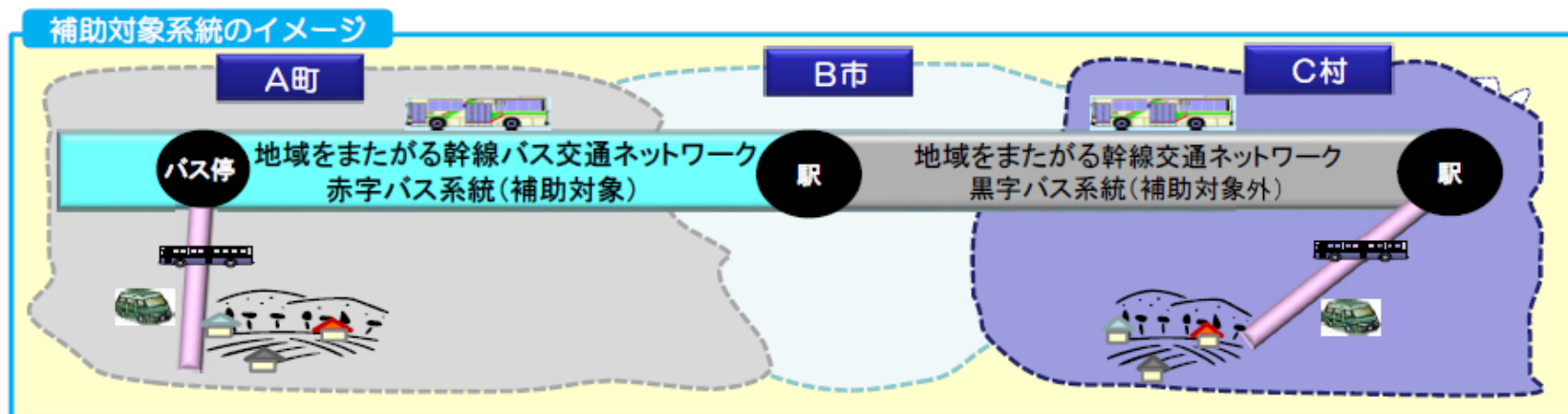
平成30年度 地域間幹線系統確保維持計画に係る事業評価概要

尾張旭市都市計画課

平成30年12月27日

地域間幹線系統補助

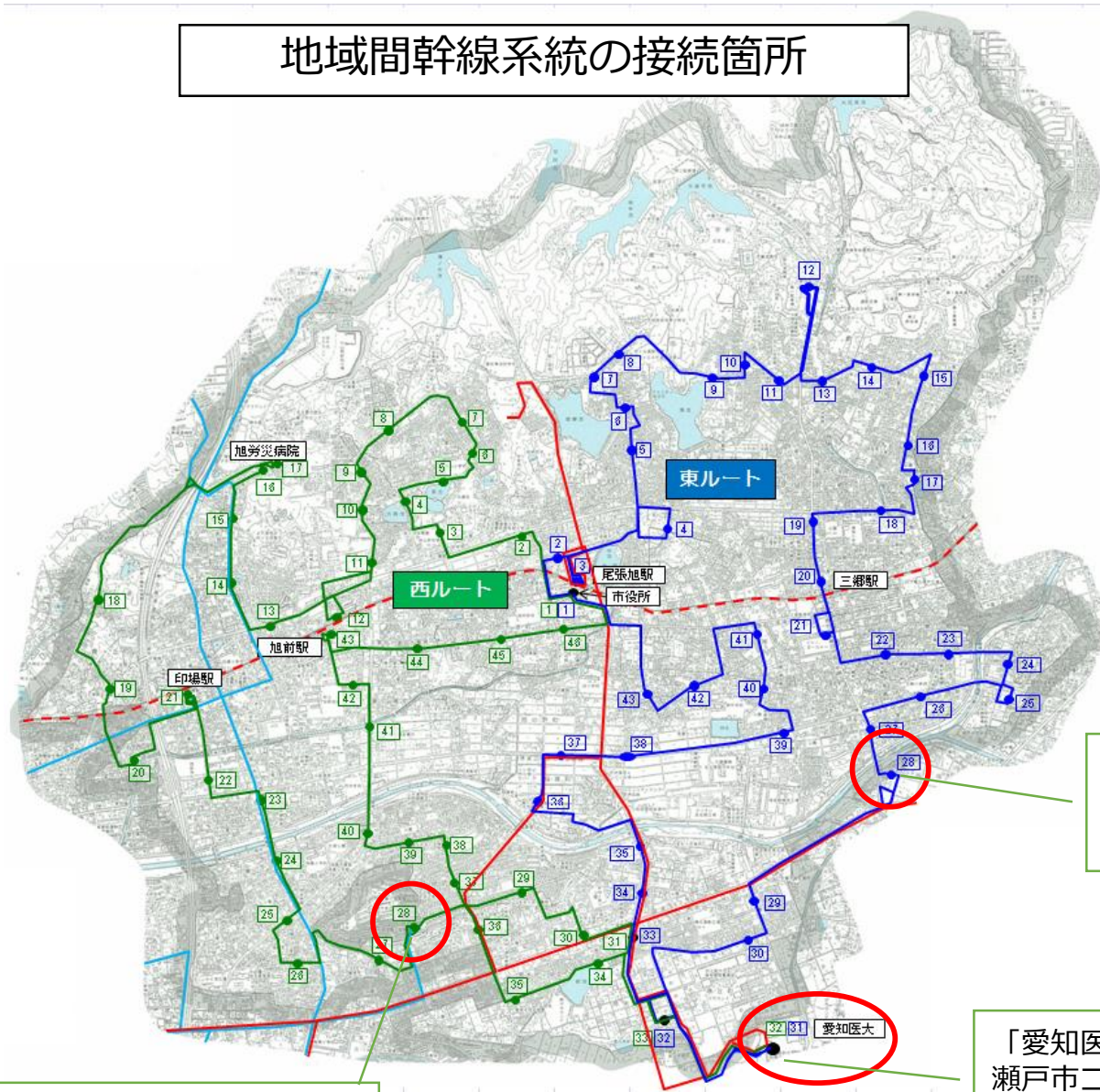
地域特性や実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保・維持するため、地域間交通ネットワークを形成する地域間幹線系統の運行について支援。



地域をまたがる交通ネットワーク
(A町→B市経由C村)

本市ではこの地域間幹線系統補助を受けて運行

地域間幹線系統の接続箇所

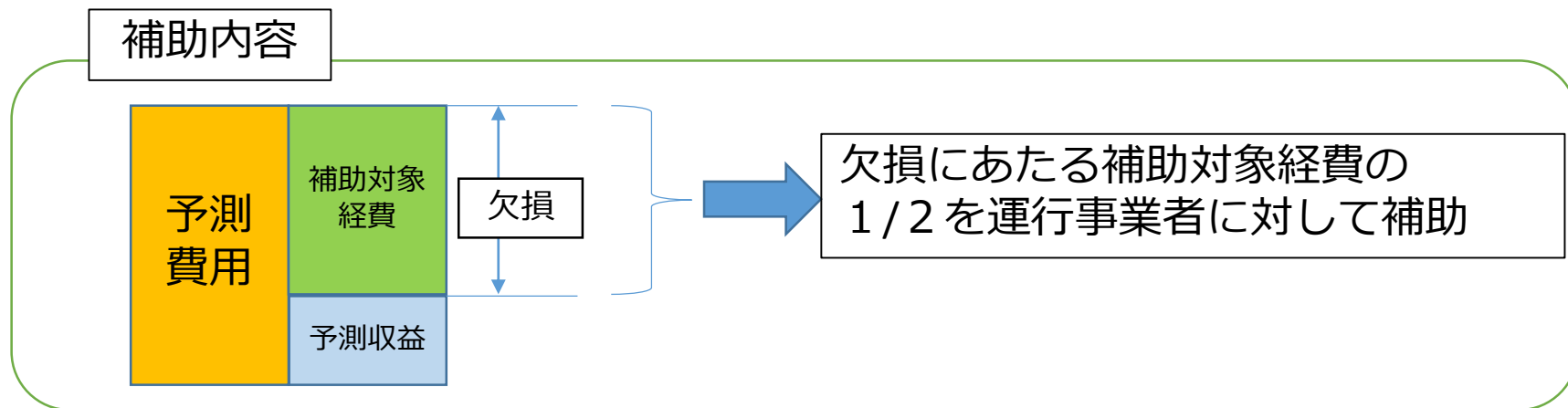


「本地住宅」
名古屋市営バスと接続

「西本地橋バロー前」
瀬戸市コミュニティバス
と接続

「愛知医大」
瀬戸市コミュニティバス、
Nバスと接続

3.補助内容



地域間幹線系統確保維持計画において必要な運行系統として位置付け申出

(前々年12月頃)

生活交通確保計画作成 (目標や利用促進策、課題への対応)

(前年5月頃)

運行 (前年10月～当年9月)

期間終了後、事業評価 ◎

(当年12月頃)

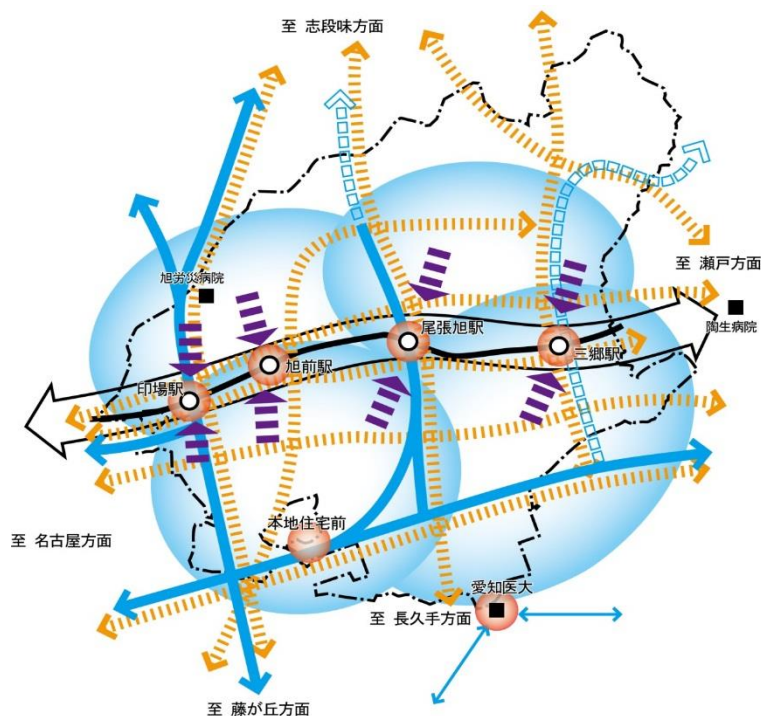
4.尾張旭市が目指す地域公共交通の姿 (Plan)

地域の特徴

- 広域路線として名鉄瀬戸線、基幹路線として名鉄バス及び名古屋市営バス、地域路線として尾張旭市営バスが運行。
- 平成25年7月に「尾張旭市交通基本計画」を策定。
- 市営バス利用者は60歳代以上で70%を超えており、買い物や通院の利用目的が多い。

尾張旭市交通基本計画

- 計画期間：平成25年度～平成37年度
- 基本理念：誰もが利用しやすく安全かつ円滑な持続可能なまちづくりにつながる交通体系の構築
- 目標年における交通体系イメージ



凡 例	
	広域路線
	自動車・自転車ネットワーク
	駅アクセス軸 (自転車・歩行者)
	基幹路線 (既存路線)
	基幹路線 (構想路線)
	地域路線
	交通結節点
	他市運行路線

※「基幹路線 (構想路線)」については、市の要望路線として今後の個別協議により整備する路線として位置付けています。

○補助系統事業評価 (尾張旭市営バス)

(1) 年間利用者数の目標設定 (補助年度：前年10月～9月)

	H30 (H29.10～H30.9)	H31 (H30.10～H31.9)
東ルート	98,000人	109,000人
西ルート	102,000人	123,000人

↑

今回評価

※ 利用者対象地域

東ルート：尾張旭市東部地域、瀬戸市西端部地域、長久手市愛知医大地域

西ルート：尾張旭市西部地域、名古屋市守山区本地が丘地域、長久手市愛知医大地域

(2) 目標設定の考え方

生活交通確保計画策定時期 (例年：前年5月頃) に目標設定

→H30：H28.4～H29.3の実績 (東：97,715人、西：102,453人) を踏まえ目標設定。

H31：H29.4～H30.3の実績 (東：108,564人、西：121,285人) を踏まえ目標設定。

※ H31年度は来年度評価

○ 平成29補助年度の課題への取り組み

(1) 休日における遅延運行

遅延調査を実施し、運行状況の把握及び分析を実施

(2) バスロケーションシステムの検討

システム事業者及び他自治体から行った情報収集をもとに導入を検討

⇒ ニーズと合致していないことから、導入は見送る。

(3) 継続的な利用促進活動の推進

広報誌への公共交通に関する記事の掲載（12月1日号広報に掲載）

○ 利用者ニーズの把握

- ・ バス利用者へアンケート調査実施
- ・ 平成28年4月の運行見直し以降に寄せられた要望の整理
（停留所の新設・復活等）

○ その他

- ・ 尾張旭市の各種イベント（あさひ健康フェスタ、尾張旭駅前にぎわいフェスタ等）にバス事業者が参加し、市営バスのPR



○ **平成30補助年度（H29.10～H30.9）年間利用者数**

コース	目標値	実績値	達成状況
東ルート	98,000人	107,837人	達成
西ルート	102,000人	124,395人	達成

○ **目標達成状況についての考察**

平成28年4月及び平成29年1月に行った運行内容の変更が
利用者に浸透。

→前年度実績比較で東ルート **4,947人、4.2%**

西ルート**11,982人、10.7%**の増加

○ **市をまたぐ利用状況（乗降人数）**

	愛知医大	本地住宅	西本地橋バロ一前
H30	37,916人	11,401人	3,461人
H29	32,232人	10,699人	3,093人
増減	5,684人	702人	368人

※ 愛知医大は東西ルート合算の乗降人数

自己評価から得られた課題

(1) 休日における遅延運行

平成29補助年度の評価時から継続して、休日における交通集中による遅延が発生している。(晴丘交差点、三郷駅周辺)

(2) 継続的な利用促進活動の推進

あさび一号及びその他バス路線について継続的に利用促進活動を推進していく必要がある。

課題への対応方針

(1) 休日における遅延運行

遅延調査を実施、結果を分析し休日の運行状況を把握。

実態に即したダイヤ改正を検討する。

(2) 継続的な利用促進活動の推進

HP、広報といった媒体を通して、公共交通に関する情報を利用者が入手しやすい環境づくりを実施する。

9.アピールポイント

指定管理者である豊栄交通株式会社から提案を受け、以下の利用促進策を実施

○ ゆとりシートの設置

乗降口後ろの座席にご高齢の方、体が不自由な方、妊娠されている方、小さい子どもを連れている方に向けてゆとりシートを設置



○ ギャラリーバス

バス利用者より「秋」に関する俳句を募集。
応募いただいた作品は車内に展示し運行しました。



○ 植樹祭ラッピングバスの運行

来年6月2日（日）に愛知県森林公園で開催される植樹祭仕様のラッピングバスを運行しました。

